

今月の聖句

『人にしてもらいたいと思うことを、

人にもしなさい。』

ルカによる福音書

第6章 31節

◎2月の予定

1日(木) マラソン大会予備日

2日(金) 中学校入学考査(～3日)

自宅学習日(中)

8日(木) 授業参観(～9日)

9日(金) 校内研修会

17日(土) 入学説明会

小5向け中学校進学についての

説明会

22日(木) 教職員協議会

27日(火) 学年末試験(中)(～29日)

◎3月の予定

4日(月) 時間割変更期間(～18日)

5日(火) 卒業遠足(中3)

15日(金) 給食終了

18日(月) 3学期終業礼拝

教職員協議会

19日(火) 卒業礼拝式予行

20日(水) 卒業礼拝式

マラソン大会

1月31日、三学期最初の行事であるマラソン大会が開催されました。日々の体育の授業で寒空の中練習を重ねました。そのおかげか当日何人かが「ベストがでた!」と教えてくれました。



◎今月の行事から

【授業参観】 2月8日(木)・9日(金)

今学期も密にならないように配慮しながら授業参観を行います。学校で元気に過ごす児童生徒の姿を見ていただければ嬉しいです。

【保護者会】 2月13日(火)～15日(木)

授業参観とは別に保護者会を行います。授業参観で観ていただいた、普段の様子を共有できる貴重な機会となれば幸いです。

【2024年度入学説明会】 2月17日(土)

海に見えるホールで実施いたします。四月からステパノ学園に入学される保護者の方が集う最初の時と場になります。

【学年末試験(中)】 2月27日(火)～29日(木)

中学校では、一年間のまとめとなる学年末試験を控えています。最後まで気を緩めることなく、ベストを尽くせるように願っています。

またインフルエンザも流行する季節です。体調に十分気を付けて生活してほしいです。

【学校の様子】

三学期終業礼拝、卒業礼拝式の日が段々と近づいてきて、卒業・進級が目の前に迫ってきました。この時期は、次年度に向けて意識を高めて生活する児童生徒の様子がみられるようになります。



『憧れられる人に』

校長 佐藤 紀明

以前、青少年健全育成活動に携わっていることを書きましたが、青少年の相談の中には「やりたいことがわからないから、勉強する意味がわからない」という子が多くいます。

私は、「わからないからこそ勉強するべき」と答えています。なぜなら、やりたいことが決まっている人は、学ぶべきことも明確です。何もやりたいことが決まっていけないのは、何の知識も技術もなく、将来における選択肢が「0」の状態、この状態を「1」にするためには、勉強することが必要だと思うのです。

また、やる気がなくても、一度何かをやり始めると集中力や意欲が湧いてくるものです。何もしたくないのは、何もしてないからです。何か行動を起こせばやる気が起こり、集中して頑張ろうという気持ちが高まるものです。

「やりたいことがない」という子がいたら、是非、家の中に溢れている「やるべきこと」を分担してやって欲しいと思います。子どもは、「学校に行く」ことが本業で、仕事や家事はやらなくてもよい、という考えもあるかも知れませんが、「家族」には、それぞれに役割があり、その役割を果たしています。子どもだからではなく、家族の一員として何か役割を担ってもらうのは大切なことだと思います。役割を果たすことで、何か「やりたいこと」に繋がることもあるかもしれないからです。

相談の中で、「結果」を気にしたり、求める内容も多いです。私は、「結果を出す」人は、「やり続ける」人だと思っているので、結果よりも、やり続けることの大切さを話します。ただし、やり続ける上で大事なことは、同じことを同じやり方でずっと続けるのではなく、毎回、少しずつやり方を進歩させながら継続することだと思うので、それを伝えていきます。

体型の相談も増えてきました。理想の体型を目指してダイエットをするために「筋トレ」を始めたのに、全く痩せなくて、逆に体重が増えてしまったので、「筋トレ」を止めた話もよく聞きます。「筋トレ」でダイエット効果を実感できた人は、頑張って続きますが、実感できなかった人は、必ず止めてしまいます。

これは、直ぐに結果が出ないから、進歩を感じられないから、続けることが嫌になってしまふからだと思いますが、結果が出ないのは、「筋トレ」をする時の力の入れ方や、体の動かし方等が間違っていたかも知れません。また、体重が増えたのは、脂肪が減って筋肉が増えたのかも知れません。効果は、自分が感じられないだけであって、本当は少しずつ進歩、効果が出ているのかも知れないのです。誰でも、何かをやり続ければ進歩します。ただ、結果を出すために、何でも漫然とやればよい訳でもありません。自分は何のために取り組んでいるのか、本質をしつかり見極める必要があります。毎回、工夫を重ね、改善していきながら「継続する」ことが大切です。

こんな相談もあります。「いろいろな方法でやってみたけど、できるようにならない」「や「続かない」と、自信を無くして心が折れてしまふ内容です。自信を無くして、無理だと思ふことには挑戦しない子が増えています。「自分は何をやってもダメだ」と自己肯定感が低く、『心のリハビリ』が必要だと感じます。誰でも、自分の「好きなこと」「得意なこと」が必ずあります。そして、「成功体験」も必ずあります。その「成功体験」を思い出させて、自信を取り戻すことから始めます。スモールステップで、「できる」と思えることを一つずつ増やしていきます。決して焦って、成果を急かさず、短絡的に求めないことが大切です。

教育の本質は、「この人のようにになりたい」という憧れだと考えます。この「憧れ」から、少しでも近づこうとする気持ちが、「努力」に繋がり、前向きな気持ちが生まれてきます。そう考えると子ども達にとって一番身近な存在である、教師や保護者のようになりたいと思ってもらえるように、日々を過ごすことが、私達が一番するべきことかも知れません。それは、特別に凄いことをする必要はないと思います。自分自身の生活を見直し、目の前の生活に誠実に向き合って、工夫や改善を重ねる姿を見せるべきだと思うのです。そして日々、私達も同じく一生懸命に頑張っているという姿をもっと見せるべきだと思うのです。私達は子ども達にとつて、「憧れられる人」であり続ける努力をしないといけませんね。

継続は力なり

教諭 根田 栄子

つい先日 2024 年が明け、3 学期が始まったと思っていたら：早くもひと月が過ぎ、2 月 14 日（灰の水曜日）からは、大斎節が始まります。大斎節とは、教派によっては四旬節とも呼ばれ、この日から復活日までの日曜日を除く 40 日間のことを指します。

キリスト教ではこの期節を、復活日に洗礼を受ける人々の準備期間としていたこともあり、しだいに自らの欲望を抑え、心身を聖く保つこと（克己）が良しとされるようになってきました。今日でも教会の大人達の中には、この 40 日の間は嗜好品を我慢し、その分の金額を寄付するという実践を行っている方々もおられます。

聖ステパノ学園では、毎年全校児童・生徒に『大斎克己はげみ表』というカードを配り、〇〇を我慢…というよりも、『がんばること（目標）』を決めて 40 日の間毎日確認する、という取り組みを続けています

- ・お手伝いをがんばる。
- ・宿題を忘れない。
- ・野菜を食べる。

等々、私たち大人から見ると「当然でしょう！」と言いたくなってしまうような目標もたくさん出て来るのですが、その子が真剣に考えた目標なら、それで良いのです。子ども

だつて生きていれば好調な日もあれば体調不良な日もあるでしょう。嬉しい日もあれば憂鬱な日もある。当然、できなかった…という日も出て来ます。それは正直に認めてはげみ表に記録し、決して腐らず、翌日から再スタートする。それが良いのです。

時には「はげみ表を失くしてしまいました…」という子も出てきます。その時は新しいはげみ表を渡され、新たに 40 日間のチャレンジが始まります。それで良いのです。

自分で決めた目標を、紆余曲折ありながらもクリアする。毎年のこの『できた』体験、失敗しても切り替えて頑張った体験が、自己肯定感を上げる一助にもなっていると思っています。

さて、私事ですが、昨年度から『書』にハマリ、毎日筆を持つことを続けています。半紙一枚でも…、果ては基礎練習だけでも…、え？もう 0 時？今日はもう無理…と、細々と続けています。『音楽の教師なら音楽の練習をしないさいよ！』と思われるかもしれませんが、仕事を終えて帰宅後の夜間では、ご近所迷惑でなかなかピアノを弾いたり歌ったりはできません。その点『書』なら、家事を終えた夜遅くだつて問題なく練習できるのです！

今、一番ハマっているのは『かな書道』です。筆や墨、硯や紙も『かな用』の物があり、『高野切』（伝）紀貫之書などを夜な夜な臨書しています。最初は何と書いてあるのかさえ読めなかったのですが、解説本を読み、書き

続けていく内に少しずつ変体仮名を覚えて、いろいろ読めるようになってきました。すると更に変体仮名を調べ、更に読めるようになって…（といってもまだまだゆっくりしか読めませんが）

寸松庵色紙とは？

ちらし書きつて：行の高さ、墨継ぎの位置、線の太細、潤滑…どれだけ散らすの！

余白？

これはもう：沼です。

かなのことばかり書いてきましたが、漢字の世界も広く、奥深いです。

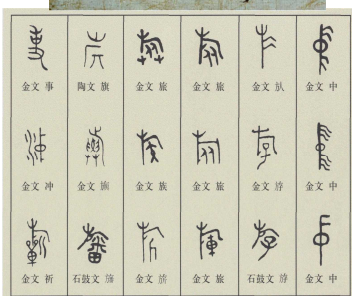
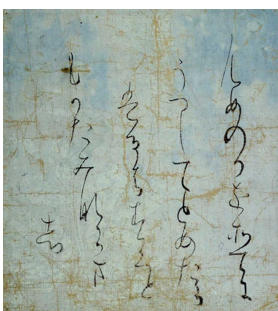
子どもの頃習っていたお習字で楷書、行書、草書の三書体くらいは知っていましたが、隸書（お札の文字）に篆書（ハンコの文字）、金文、甲骨文字なんて、原始人の絵みたいな文字まで…。

…え？…起筆どうするの？

どういう書き順？

…底なしです。

目標』とにかく毎日筆を持つ。大斎中も、これを継続。』これで決まりです。



クリスマス祝会の装飾のために、クリスマスと関わりの深いポインセチアを購入し、ホールに飾っておきました。入口付近に置いてあったものに、気づいた方もいらつしやったかもしれません。ポインセチアは寒い時期のものという印象がありますが、温暖な気候の植物だそうです。初めそうとも知らず少しの間寒空に置いておいたら、葉が下がってしまい元気がなくなっていました。3学期に入ってから水をやり面倒を見ていますが、水が足らなくなつてくると葉がしおれてしまいます。でも、水をやって数時間経つと元気な姿に戻ります。きちんと面倒を見てやることの大切さを感じます。うまくいくかどうかはわかりませんが、今後も手入れをして、来年度のクリスマスも赤いきれいなポインセチアを見て頂けるように、1年間面倒を見ていきたいと思っています。

一方、聖ステパノ学園の木々の管理を空師の佐野さんにお願ひしています。空師という職業について、初めて聞く方も多いと思います。調べてみると、山や森の多い日本では昔からある職業で、高い木の伐採を専門とする方々です。どのような高い木でも、専門の道具を使って上って、高所の伐採を行います。今のように高い建物など無い時代に、空中で

作業している姿からその名前が名付けられたそうです。現代の空師の方々は、高所伐採の他にも山全体の整備も行っているそうです。佐野さんにお話を伺うと岩崎山の斜面は、建物の影響で土が流れてしまっている箇所があるそうです。実際見ると、根がむき出しになつてしまっている木がいくつも見られます。

佐野さんはその斜面に落ち葉をまいて土が流れ落ちないようにすることや、枝を使って土留めをするなど対処して下さっています。空師という言葉が今でも残っているように、昔の日本人はこのように山や森を守って、生活していたのだということを考えました。

「おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川に洗濯に・・・」という昔話を日本人なら一度は耳にしたことがあると思います。ここでいう「しばかり」は、芝を刈るという「芝刈り」ではなく「柴刈り」つまり、小さな雑木や枝を野山から採集する事を意味しています。かまどでご飯を炊いていた時代、採ってきた枝を焚き付けに使っていたそうです。日本の国土の約7割は森や林です。昔の日本人は生活の中で山に入るなど、森林と共に生活を送っていました。また、自然にのびてしまった枝を刈る事で、森の手入れとなり豊かな森を保って生活を行っていました。一方、ステパノの中学生は「森の中の教室」をはじめ岩崎山の中で生活しています。私が来た十年程前と山の様子が変わっているように感じます。七曲りをのぼりきったところの斜面

がずいぶん崩れてしまいました。学校でも土留めをするなど管理をしています。皆で聖ステパノ学園の森を守っていけると良いと思います。

教職員の研修のなかで佐野さんから、グラウンドにある大きな木はクスノキで、樹齡は何百年なのだという事を伺いました。その他にも、岩崎山の水の流れやそれぞれの木の特性など伺いました。とても興味深かったのが、森の生態系のインクルーシブの話です。森の中では多様な生物が、食物連鎖など関わりあつて生きているという話です。改めて中学生が自然の中で生活している事をありがたく感じる一方で、ステパノの自然を守っていく必要があると思いました。私は初めて聖ステパノ学園を訪れた方に、とても自然の多い学校であること、「中学生はこの自然の多い環境でいきいき生活しています。」と紹介します。私は豊かな自然の中では、豊かな心がはぐくまれるのではないかと考えているからです。十年後、二十年后にも豊かな自然が残るように、この岩崎山を大切にしていかなければいけないと感じています。



「学校」の真理はどこにある

教諭 佐々木 心

「学校」という言葉を聞いて、私達は最初にどんなイメージをするでしょうか。ある人は「勉強」と、またある人は「友達や先生」と、学校でする事や学校にいる人に着目し、「青春」や「思い出」と、目には見えないけれども心に抱かれた感覚や感情が蘇る人もいるかもしれません。かくいう私もまた、学生時代に同じ問いかけをされたなら、前述のような言葉で「学校」をイメージしたはずです。

この学園に奉職し、子ども達を迎える立場となつて改めて「学校」という言葉と向き合いつながり過ぎていく日々の中、私の心に迫ることがあります。それは、子ども達にとっての「学校」がどれほどその子の先の人生を象るのかということ。それは簡単に言うならば、ひとつ道を踏み外せば私達はいつでも希望の道から外れ、恐れと絶望の暗闇に迷い込んでしまいかねないということです。

ある日の朝の礼拝で、先生のお話を聞いていた一人の児童が、につこりと「ぼくは、イエス様が大好きだよ」と叫びました。この幼き天使の一言に、私はとても驚き平安を感じつつ、このように思いました。「ここにいるからこそ紡がれる言葉なのだ」と。学校という場で、神様の存在を認識し、目には見えずとも心をひとつにしてイエス様と祈りをもつ

て対話し、賛美の歌を捧げる日常が心に沁みこんでいるからこそ、彼の口からこのような呟きが放たれたのだと感じずにはいられせん。

このような話をする、洗脳なのではないかと不安に思う方も少なくありません。それもそのはず、これまではそんな事を言うような人ではなかったのに……という相手であればあるほど、この人は、宗教に洗脳されている！と心配になるのも仕方ありません。ですが、全国の公立学校で配布される教科書を読むとどうでしょう（無論、私達もその教科書を使っています）が、国語の文章教材では、やれ人間はサルから進化した、やれ鳥類の祖先は恐竜だと有無も言わず進化論を語り、理科の教科書ではダーウィンの進化論が科学的真理だと根拠なき事を大々的に掲載する始末です。これを与えられ、自然的に扱うことに、もつとも疑問を感じないでしょうか。

これらのことから私がお伝えしたいのは、教科書の言っていることは信用ならないから懐疑的な人間になれ、ということではありません。しかし、進化論をのうのうと信じ、それが嘘か本当か分からなくなった先に苦悩が待ち受けている教科書の内容と違い、私達・子ども達が見上げる神様は『涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう』と仰っています。歌舞伎役者の市川海老蔵が奥様を天国に送った悲しみのどん底で、幼稚園時代に歌った賛美歌を思い出し励まされたよう

に、信じる者に希望と安心を抱かせてくださる主を、小中学生の時代にすでに知っている私達は、この先迷った時、確固たる比較対象としての『イエス様』が道しるべになるのだということをお伝えしたいのです。……それも、人生の真つ暗闇にいる時に、不思議と賛美歌や暗唱聖句が頭にふと思い出されるものなのです。きっとそれは、神様から与えられた救いのメッセージなのでしょう。

予測不能な時代に生きているからこそ、私達の選択にはとても重みがあります。自分にとって耳に心地よい言葉や都合のよい事柄だけを見つけて「これが正しいのだ」と正当化せず、思慮分別のある人生に足をつけて確実に歩むためには、誤りなき神の言葉を根拠とした聖書の御言葉に基づいて送る生活が必要なのではないでしょうか。

そんなことを踏まえて、仲間と共に同じ神様を見上げる機会のある場所としての「学校」という言葉が、違った響きで胸に押し寄せてきませんか。

―『人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時がくるであろう。しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。』

第二テモテ四章三―五節 口語訳聖書



「小学校」マラソン大会では、保護者の皆様の声援のもと、元気いっぱい走ることができました。それぞれが全力で記録を更新し、よい笑顔の弾ける日となりました。あたたかい声援、ありがとうございました。

各学年の総距離

小1・小2

小3・小4

小5・小6

2.21.71.2
km km km

「すいようびに、バスにのって、うんどうこ
うえんにいきました。うんどうこうえんにつ
いたとき、5年生と6年生がはしっていました
た。そのあとじゅんぴうんどうでみんなでは
したら、ダッシュしすぎて、ほんばんの2
しゅうはちよつと止まってしまいました。で
もがんばりました。1.2 kmはしり、つかれま
した。」

1年 S・K

「今日、うんどう公園でマラソン大会をし
ました。お母さんとお父さんがおうえんして
くれたのでとてもうれしかったです、2位に
なりました。今度のひょうしようが楽しみです
入しようして楽しくかったです。先生、い
いでしょ。マラソン大会楽しかったです。」

2年 I・O



「今日は、マラソン大会でした。すぐくすぐ
がんばりました。けつかは、11分台でした。
K君と一緒にゴールでした。うれしかったです。」

小3 Y・E

「大磯運動公園で、きのう、マラソン大会が
ありました。おうえんに来てくれたのはママ
でした。最初のときはあまり苦しくなかつた
けれど、走っていると中から苦しくなりまし
た。最後はとてもつかれました。1.7 kmと長
い距離でと中で歩いたときもあつたけれど、
頑張つて最後まで走りました。」

小4 S・M

「大磯運動公園でマラソン大会がありました。
走る前は緊張しましたがタイムをちぢめられ
てうれしかったです。最後はちよつとつかれ
ました。5年生になったら7分切りたいです。

練習では5位だったけれど、2位になれて
良かったです。5年生になったら1位を目指
したいです。」

小4 N・K



今日はマラソン大会でした。前の記録より
ものびてるし、うれしいなどおもいました。
でも一度だけ歩いてしまいました。さいご
まで走れてよかったです。

おわたあとのサッカーがすごく楽しくて
よかったです。またいきたいです。

小5 I・M

今日はマラソン大会でした。去年より順位
が上がりました。とてもたのしかったです。

最初はマラソン大会がいやだったけど走っ
てみたらたのしくてよかったです。

次のマラソン大会もがんばります。

小5 Y・K

今日はマラソン大会で、練習と本番のはや
さのちがいを感想にまとめました。まず、1
回目は10分1秒、本番は、9分47秒とタイ
ムが上がって2位でした。本番はきんちよう
してタイムが練習よりもとても下がるかと思
いました。けど、本気でがんばって1回目よ
りも上がってとてもうれしかったです。次は
中学生です。これから陸上部でタイムを上
げ、がんばります。

小6 I・T

今日はマラソン大会があつた。お父さんと
練習した成果が出た。ものすごくうれしかつ
た。愛犬もよろこんでくれたかなと思つた。
中学生の走る姿がめっちゃくちゃかっこよかつ
た。来年もがんばります。

小6 K・R



4年ぶりに学年対抗百人一首大会が
開催されました。

今日は学年対抗百人一首大会をやりました。国語の時間に百人一首をやった時に覚えるのは大変だけど、実際にやってみると楽しかったです。百人一首大会の1回戦目は3枚しか取れなかったけど、2回戦目は17枚とれました。17枚取れてうれしかったです。来年は20枚は取りたいです。

中1 G・T

今日は待ちに待った百人一首大会がありました。絶対に中二で勝ちたいと思っていました。

まず、一番に名前を呼ばれて前に出ました。頂上決戦の選手として選ばれたのです。前に出たら、熱い声援を浴びました。とても誇らしかったし、めちやくちや燃えてきました。前半、僕は34枚も取れました。相手は16枚でした。それを皆に伝えたら、喜んで抱きついてくれました。後半は、何と僕は中三の二人を相手に一人で闘いました。「そりゃないよ。」と焦りました。まさに背水の陣でした。それでも踏ん張って勝ちました。27対21です。とてもやりがいがありました。汗をかきました。

結果、中二としては残念ながら優勝



はできませんでした。でも、今まで頑張ったことを発揮できて、ホントよかったです。来年もやりたいです。

中2 S・H

今日は「新年百人一首大会」を行いました。2回戦行い、僕は中2のS君と対決しました。1回戦目は敗北してしまいました。途中で僕はH君を投入しました。僕は38枚を取り、S君は45枚だったので、心の中で「うわあ…。俺負けかよ…。」と思いきや、中3が逆転し、僕は百人一首大会の賞状を受け取りました。中3と中2が16枚差で優勝できてうれしかったです。

中3 A・K

1月31日(水)に晴天の中、マラソン大会が
開催されました。

今日は全校のマラソン大会でした。運動公園までバスに乗っていきました。マラソン大会の試走の時は全然緊張しなかったけど、本番の時はみんなが応援してくれてうれしかったです。自分の目標は全部出しきりました。来年は3位になりたいです。あと、K君を抜きたいな一と思っています。中3になってもマラソン大会をがんばりたいな一と思っています。

中1 K・T

今日はマラソン大会がありました。お父さんもお母さんも応援に来てくれてとても嬉しかったです、その応援が力になってタイムが3分も縮まりました。足がいたくて大変だったけど、帰った後にたくさんほめてもらえて嬉しかったです。来年もタイムが縮まるように頑張って練習したいなと思いました。

中1 H・S



最高のマラソン大会でした。なぜなら1年の時と比べて大分伸びたからです。そして他にも駅伝に出られたり、成長したと思います。来年はどこまで伸びるかな？

中2 I・J

今日はマラソン大会がありました。自分はあまり良い記録を出せるか分からなくて、全然運動もしてなくて、とても心配で不安な気持ちのまま走りました。



走る途中で応援をもらって、がんばろうという気持ちになりました。ですが、走っている途中息がしにくくなって、足も痛くなったりと急に災難が起きて焦りましたが、最後に全体力を使って完走しました。完走した時には、やっぱり中盤から

もつと飛ばして走るべきだったなと思いました。結果としては、タイムが前年よりも縮んでいてとてもうれしかったです。来年はもうちょっと頑張りたいです。

中2 N・Y

今日はマラソン大会でした。小学校一年生から行っている行事で、冬と言ったらマラソン大会と自分の中であってしまいうほど一年間の行事の中で好きだし、恒例行事なので、今年で「最後」というのは悲しいです。「高校でもある」と言う人もいるかもですが、ステパノでのマラソン大会や色々な行事は特別です。なので、終わってしまったのは残念です…。でも今日は「悔いのない日にしたい！」と思っていたので全力で走ったのは勿論、他の学年の応援、皆と走る楽しさを忘れることのない思い出になりました。応援に関しては、自分が皆にされて嬉しかったし、ステパノ生のことを応援できるのも数が限られているので、全力で行いました。



今日、一番嬉しかったことは、個人で立てた目標「歩かずに走りきる」という目標が達成できて嬉しかったです。これからも目標に向かって進んでいきたいです。

中3 A・M

今日はマラソン大会がありました。今年最後のマラソン大会なので、思いっきり力を出し切りしました。

目標は一位になることと、前のタイムよりもっと上げることになりました。その結果、二つとも目標が叶い、良い伝説を残せました。

高校でもこの目標が活かせるようにがんばります。

中3 K・H



災害や事故に心痛む中、三学期始業に活気づく嬉しい贈り物が届いたようです。



メジャー・リーグで前人未踏の活躍を見せる大谷翔平選手から、「野球しようぜ」のメッセージと共に、野球グローブの贈り物が届き、その報告があった始業礼拝では、子ども達の大きな歓声が上がったそうです。全国二万校の公立・私立小学校、義務教育学校、特別支援学校に配布された約六万個のジュニア用グローブは、大谷選手と契約のニューバランスの協力によるもので、右利き用のものが二つ、左利き用のものが一つ、在校生の人数に関わらず、各校三つずつ寄贈されたそうです。

同封されていた手紙には、「この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持つてもらうために立ち上げたプログラムをご紹介しますためのものです。この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルと

なることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々の発展をお祈り申し上げます。野球しようぜ。」との文章が添えられていたそうです。また、「野球を通じて元気に楽しく日々を過ごしてもらえたら嬉しいです。このグローブを使っていた子供達と将来一緒に野球ができることを楽しみにしています！」とのコメントも自身のSNSで発信されました。

大谷選手は、野球の他にも広く知見を広げることとを心掛ける読書家としても知られ、幅広い世代に影響を与えています。人生を好転させる積極一貫の心を説く思想家・中村天風の『運命を拓く』、京セラ・第二電電（現KDDI）を創業した実業家・啓蒙家・慈善活動家である稲盛和夫の『成功への情熱』、『生き方』、『心』、『アメリカの実業家・慈善活動家であるアンドリュース・カーネギーの『富の福音』などが愛読書として知られています。『富の福音』は、本校創立者・澤田美喜先生の叔祖父・岩崎彌之助の愛読書でもあり、その日本語版序文に「富める者の使命は、富を人々に還元させること」だと寄稿しており、両者に通じる思いと行いに感銘します。

STEPHEN'S NEWS

○第六十五回プレゼンテーション作成検定試験

【四級】 中三 S・S

○中学生の税についての作文

【大磯町長賞】 中二 H・U

○第四十二回 全国児童画コンクール

【優秀賞】 小六 T・G

【入選】 小六 K・R

○第七十回 大磯一周駅伝大会

総合第六位 団体別第三位

聖ステパノ学園中学校陸上競技部チーム

一区 N・K 二区 A・K

三区 I・J 四区 K・H

五区 O・T 六区 N・O

大谷翔平選手から贈られたグローブをはめてポーズ！



【編集後記】

一月も半ば。新年は苦難の幕開けに誰もが心を痛ませましたが、今日も変わらずに空気は澄み渡り、まっすぐな陽の光に包まれて時が流れています。ステパノの子どもたちの心も、キンと冷える寒風を脅かすほどに、神様からいただく愛のとしびによって暖かく燃えています。今もまだ悲しみの中にある隣人を覚えて祈りながら、私達もまた、学年末を見据えて走りぬきたいものです。（こ

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

T 255・0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

F 0463・611・1298

A 0463・611・9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二四年二月九日（金）発行第284号